様式7　授業改善プロジェクト

アクション・リサーチのまとめ

英語教員指導力向上研修

受講番号 18088　**学校名** 上分中学校　**氏名** 和田　浩子

研究の背景

研究対象（学年、クラス等） 2年　**生徒数** 9 名

科目名 2年　**単位数（授業時数）** 3 時間　**使用教科書名** New Horizon 2

クラスの様子・特徴

少人数で全体的におとなしく、真面目に取り組む。活発に発表するときもある。わかっていても発表しないことがある。苦手意識をもった生徒が数名いる。音読や発表は比較的小さな声のときが多い。

問題の確定

発表の場で自信がないようにもみえ、声が小さい。真面目に取り組んでいるが、自信がないために、伸び悩んでいるようにも見える。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
（4月）真面目に取り組んでいるが、音読では声が小さく、発表も少ない。（5月～9月）音読練習では声が大きくでるようになり、読めない単語は自分から質問できた。（10月～12月）発表回数が増えた。大きな声で読めるようになった。	アンケート（4月実施）～読むことの難しさを感じている。（7月実施）～リーディングテストや読む活動にプラス評価をしている生徒がいる。	CRT分析～全国平均を4領域で上回っているが、個人でみると、個人指導の必要な生徒もいる。小テスト（読み、意味）では、毎回、ほとんどの生徒が10点満点である。

リサーチ・クエスチョン

生徒に単語を読むことができる、意味がわかる、という語彙の力をつけるためにどのような指導を取り入れるか。

仮説・実践・検証

仮説1 ⇒	実践1 ⇒	検証1
音読と語彙の定着には密接な関係があるのではないか。だから、新出単語、既出の単語を何度も声に出して読む、音読練習を多く授業に取り入れる活動を行えば語彙力が増えるだろう。	家庭学習での本読み。一文読み、スラッシュ読み、リード＆ルックアップ読み、ペア読み、回転すし読み、などいろいろな読み方を取り入れながら、音読指導を行った。また、発音の間違いは全体指導だけでなく、個人指導を行い、矯正していった。中間テスト、期末テストでのリスニング問題や適語記入問題、並べ替え問題などで語彙力を確認していった。	音読のときの読む声が大きくなってきた。個人で読むことへの抵抗が少なくなった。毎時間の音読練習にかける時間にムラがあり、音読の練習を時間を多くとったユニットとそうでないユニットがあった。単語によって、生徒の発音の間違いが共通していることがわかった。中間テストや期末テストでの理解力でも読む練習を多くとりいれた範囲の方が生徒の知識力が高くなっていることがわかった。
仮説2 ⇒	**実践2 ⇒**	**検証2**
定期的に、また、継続的に小テスト（リーディングテスト、意味テスト）を行うことで、語彙の力がつくのではないだろうか。	リーディングテストを行った後、同じ英文で意味のテストを後日行った。7月～ALTと実施（1回）。9月～12月定期的に実施。12回行う。（リーディングテスト6回、意味テスト6回）また、語彙力をみるために家庭学習または授業内でユニットごとのワークシート学習にも取り組んだ。過去の英語検定の問題にも取り組んでいった。	生徒がよくする同じ細かいミスも見つかり、音読の今後の指導に役立った。1学期よりも2学期には、友達同士で読み方を教えあう姿もみうけられた。範囲をしぼった読みや意味のテストであるため、良い成績をとることができた。ワークシート学習では、単語の意味や単語を教科書を見なくても書ける生徒が数名いた。また短い文であるため英単ノートに自分なりの工夫ができている生徒もいた。
仮説3 ⇒	**実践3 ⇒**	**検証3**
校内英語暗誦大会に全員参加することで、読む力がつくのではないだろうか。そして、毎年行われる英語暗誦大会にクラス代表だけの出場では、出場者とそうでない者との発表までの学習意欲が違うのではないだろうか。	10月20日校内英語暗誦大会を実施（ペア3組、個人3組）。クラス内での暗誦の発表も数回行い、モチベーションをあげる工夫をした。また、放課後や昼休みを使って、個人指導を行い、発音やイントネーションなどの練習を中心に行いながら、ジェスチャー、アイコンタクトも交えることも指導していった。自己表現方法をできるだけ自分たちで工夫させるよう助言した。	当日の休み時間は、時間を惜しんで練習するなど、学級全体が盛り上がっていた。また、全員参加することで、クラスの雰囲気を盛り上げることができた。全校の前で堂々と発表することができた。スピーチ練習をしたことで、自己表現力もつき、英語の授業中だけでなく、他の場面でも活動する姿がみられるようになった。また、生徒同士でジェスチャーの工夫を考えたり、お互いを高めあうことができた。

研究の成果

音読を多く授業に取り入れていく中で、徐々に生徒の音読の声が大きくなっていくのを感じることができた。読むことに自信のなかった生徒も大きな声で読めるようになった。 当初は、スラッシュ読み、ペア読み、一文読みなどの本読みを授業の中ですることに抵抗があったが、今では抵抗もほとんどなくなり、読みたがる生徒が増えた。スピーチコンテストに出場することで、今までおとなしく発表が苦手に見えた生徒が堂々と人前で発表することができた。その結果、自分に自信がついたのか他の学級活動の場面で活動しようとする姿もみえた。

今後の授業改善の課題

リサーチクエスチョンの絞込みに時間がかかったので、研究もまだ経過途中である。音読の指導の結果、読むときの声は大きくなったが、語彙力との関連性は結果として検証できていない。1学期、2学期の中間テスト、期末テストをみて、比較的、力の伸びた生徒もいるが、現段階では、経過途中である。本読みの宿題が定着できていないので、引き続き、取り組んでいる途中である。アンケートも引き続き、実施予定である。

リサーチについての問合せ先：　職場電話　0889－46－0112　電子メール　kamibun-j@kochinet.ed.jp